



ありがとう
善意品



社会と会社と市民と共に歩み、未来へ

企業の社会参加・社会貢献活動の特性が効果的に発揮され、生かされ、社会・市民と共に持続的に発展することにより、「住みやすい社会の実現」のための「新しい力」となります。

- 長引く不況の中、企業のフィランソロピーは、明確なミッションと合意形成による活動行動方針により間接的・長期的に企業価値への貢献に繋がるという社会性の中で進められています。
- 市民の社会貢献(ボランティア活動等)と、企業や行政、社会福祉施設・団体などが協働・連携した、「住みやすいまちづくり」が求められています。

(参考)22年1月までの実績

月	寄贈者	内容
4月	株式会社ツルハホールディングス クラシエホールディングス株式会社	車椅子10台
10月	千葉県個人タクシー協会	車椅子4台
12月	ノースウエスト航空会社	機内食用食器12種類(約20,000個)
	京葉食品コンビナート協議会	クリスマスケーキ744個
	株式会社ガイア	車椅子3台・ぬいぐるみ200個
1月	積水ハウス株式会社関東営業本部	カレンダー(約60点)

いただいた物品については、県内社会福祉施設・おもちゃ図書館・社会福祉協議会にて有効に活用させていただいています。

＊
TOPIX
トピックス
＊

庭木の手入れ、水道の水もれ、買い物代行…

身近な困りごと、私たちが解決します!!

●市原市の〈桜台お助けマン互助会〉

同じ地域の住民同士、困ったときは助けられたり、助けたり—市原市の桜台団地には「桜台お助けマン互助会」(吉沢正夫代表)が組織されており、住民が抱える身近な困りごとの解消に活躍しています。

作業は年会費と1時間800円

〈互助会〉結成のキッカケは、昨年4月桜台自治会総会の席で、一人の住民から「高齢者にとっては、日常生活の中で身近なトラブルがたくさんあり、自治の力でなんとかして—」との声があったこと。



数日後、吉沢さんたちの間で、そのことが話題となり「自治会の中には、様々なボランティアグループがあり、声をかければ地域の困りごと解決の組織がしてくれるのでは…」と意見が一致。早速、他の役員やボランティアグループに働きかけたところ、みんなが「賛成!」と参加の意向を示してくれたのです。こうして10月には「桜台お助けマン互助会」が正式に発足しました。

当初は、純粋なボランティア活動を考えていたのですが、「運営費はどうするのか?」「無料だと、お願いした住民がお礼に悩むことになる」といった意見もあって、それでは「会員制にして、活動に対しては有償で…」と決めました。

その会費は、活動をする〈協会員〉も、頼む側の〈利用会員〉も年間1,000円。利用会員は、何か修理してもらった場合の材料費は自己負担。作業の手間については1時間800円が基本で、30分単位で計算するシステムになっています。

「地域のため」と自治会も全面協力

この計画には、自治会側が全面協力、事務局を桜台自治会館に置いてくれたり、電話、コピー機、車、受付や連絡係の職員まで、「地域住民のための活動なんだから」と無償で提供してくれます。現在、〈協会員〉が19名、〈利用会員〉は16名います。その他、賛助会員の個人が6名、法人が1団体。

スタートした昨年10月から平成22年1月末までの申し込み件数は12件。その内容は、庭の雑草の刈り取り、物置の整理、トイレの水もれ修理、玄関のインターホンの修理、障子貼り—など実に多彩。その作業に当たる〈協会員〉には、入会の際に自分の得意な仕事、持っている資格を申告してもらい、〈利用会員〉からの申し込みに対し、得意分野で腕を振るってもらうことにしています。なお、利用の申し込みができるのは、65歳以上の高齢者ということになっています。

現在、桜台団地は人口の約25%が65歳以上の高齢者とあって、庭木の手入れも1人ではできない状況。老朽化した家の小さなトラブルも多く、その解決に同じ地域の住民が活躍してくれるこの団体には、「おかげさまで、低料金で修理が済みました。助かりました。」といった感謝の声が、沢山寄せられています。

地域の〈一芸名人〉掘り起こしも

発足したばかりで色々課題はありますが、住民の皆様が安心して暮らせるよう、組織と事業を充実させていきたいと思っています。作業の幅を広げるため、地域に眠っている〈一芸名人〉を掘り起こして協会員になってもらうことにするなど、〈お助けマン互助会〉にふさわしい団体に成長させたいですね。

吉沢正夫
代表の話

